

研修目標と研修内容について

職種名「言語聴覚士レジデント」

1 概要

がんの進行やその治療の過程で生じた構音・嚥下・発声障害に対して、言語聴覚士（ST）の業務に必要な知識と基本的技術の習得を目指し、がん医療に精通したリハビリ技士の養成を目的とする

2 研修での到達目標

3) 一般目標

言語聴覚療法全般に関する基本的技術の習得

4) 行動目標

下記知識・技能の習得を目標とする

- ・ 頭頸部がん（舌がん、咽頭がんなど）術後の構音・嚥下障害に対する治療介入
- ・ 頭頸部がん（喉頭がん、下咽頭がん）術後の発声障害に対する代用音声訓練（電気式人工喉頭、食道発声、シャント発声）の指導
- ・ 放射線療法および化学放射線療法後の嚥下障害に対する治療介入
- ・ 脳腫瘍による失語症、構音・嚥下障害に対する治療介入
- ・ 脳腫瘍（聴神経腫瘍など）術前・術後の聴力検査技能の習得
- ・ 食道がん術後の嚥下・音声障害に対する治療介入
- ・ 小児科がんに対する専門知識と技能の習得
- ・ 緩和ケア病棟における QOL 維持のための指導 など

3 実習方法

以下の形式にて、1 年目は主に、臨床業務を通じてがん専門病院における言語聴覚療法の基本的技術を習得するとともに、種々の勉強会や院内カンファレンスへの参加、チーム医療などについて、がんのリハビリテーションの基礎を学ぶ。2 年目は主に、病棟やリハビリ室における臨床業務などを通じてがん医療の臨床経験を積むことにより、がん専門リハビリテーション技士に必要とされる知識や技能を習得する。

a) 日常業務を通じた研修

研修指導者の受け持ち患者および担当患者を通じての直接指導。

b) 講義やカンファレンスへの参加を通じた研修

がんに関する基礎知識、がんのリハビリテーション、専門領域に対する勉強会など。